

多様なテキスト形式に対応する国語科教育の在り方

—「アイスプラネット」(中学2年)のテキスト形式とその評価—

佐藤 洋一* 松山 宜申**

*名古屋学芸大学ヒューマンケア学部

**愛知県常滑市立西浦南小学校教諭

The Ideal Way of Japanese Language Education Corresponding to Various Text Formats
- Text Formats of "Ice Planet" (2nd year of junior high school) and Evaluation -

Yoichi SATO*, Yoshinobu MATSUYAMA **

*Nagoya University of Arts and Sciences, Human Care Studies, Nissin 470-0196, Japan

**Nishiura-minami Elementary School, Tokoname City 479-0804, Japan

要 約

資質・能力型教育に転換した新学習指導要領では、『社会に開かれた教育課程』の実現「持続可能な社会の創り手」(「総則」)の理念を受け、「各教科等を学ぶ意義の明確化」が改めて重視され、各教科等の「学びの深まりの鍵となるのが『見方・考え方』」と明記された。総論としての「見方・考え方」は理解できても、授業では小説や評論、随筆、詩歌等の個々の教材における「見方・考え方」を明確に「働かせる」授業と評価方法の開発が不可欠となる。そのためには、教材における本質的な「見方・考え方」「深い学び」の明確化、それをいかした資質・能力育成につながる授業構想と評価開発が求められる。

しかし、管見では各教科を学ぶ意義・価値(本質的な問い)と学習指導要領が示す「見方・考え方」「深い学び」の関係が漠然としていたり、教科・教材の本質を構成する「テキスト内容(内容価値)」と「テキスト形式(方略やスキル、戦略)」の解明が不明確な実践や提言が多い。学びの深まりや主体性、資質・能力育成を重視した授業構想のためには、例えば改めて「なぜ、この小説を学ぶのか」「この小説のメッセージと方法・戦略は現代を生きる私たちに何を伝えてくれているのか」という「見方・考え方」「深い学び」の視点から教材の価値と学習の方法、学びの深さ・質をとらえなおすことが必要となる。

本稿は新学習指導要領における資質・能力育成における実践課題に着目し、「見方・考え方」から教科の本質に迫る学び、「見方・考え方」を通した「深い学び」等について実践的に提案したものである。

Keywords: 資質・能力、テキスト形式、言葉による見方・考え方、ルーブリック

I 資質・能力の「三つの柱」と学習評価、教科を学ぶ意義

1 資質・能力をバランスよく評価するとは

新学習指導要領における資質・能力(コンピテンシー)ベースの教育改革は、資質・能力を「三つの柱」に整理し(注1)「主体的・対話的で深い学び」を実現するとともに、学習評価改革においてもこれまでの小中学校での「観点別評価」(指導と評価の一体化)を高校でも一貫して再構成することが提起されている。

新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価と授業の在り方を再構築し、三つの資質・能力をバランスよく評価するためには知識量を問うだけでなく論述やレポート、エッセイ、鑑賞・批評、発表・討論等の多様な活動を通した評価(パフォーマンス評価)を用いる等、多面的・多角的な評価開発とルーブリック(評価基準)の開発が必要となる。

2 教科を学ぶ意義と学習者の「深い学び」

資質・能力を育てる基本的な教育課程の枠組みとして提示され

た六点のうち、一番目はいかに教えたかではなく学習者が結果として「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力の明確化)であり、二番目は「何を学ぶか」(教科等を学ぶ意義と教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成)、三番目は「どのように学ぶか」(各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実)が明記されている(注2、下線部は佐藤・松山による、以下同じ)。

教育課程編成でも各教科等の本質を学ぶ意義の明確化とそれを踏まえた教育課程編成が改めて重視され、さらに「深い学び」と教科の「見方・考え方」との関係性、「学力の三要素」(学校教育法第三〇条)を踏まえた学習過程についても、以下のように述べられている。特に「見方・考え方」が目指す資質・能力と学びの深まりをつなぐ位置にあるとの視点は重要である。

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら(教科等の本

質に迫り)、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか (注3「総編」78頁)。

II 切実な実践課題—みえにくい「見方・考え方」の位置—

2020年4月から小学校における新課程が全面的に実施されたが、本稿に関わる点では以下のような切実な実践課題が見られる。

(1) 各教科を学ぶ意義・価値と学習指導要領が示す「見方・考え方」とのつながりや違いが不明確なままの実践が多いこと。例えば、授業では個々の教材における「見方・考え方」を明確にしたうえで「働かせる」授業が不可欠になるからである。

(2) 教科としての目標と評価基準が、資質・能力育成 (「三つの柱」としての目標と評価基準) にどうつながるのかわからないこと。これまで四観点であった評価の観点 (国語科では五観点) が全て三観点 (「三つの柱」) に整理された。そのため、各教科学習のレベルと「資質・能力」育成とのレベルのつながり、関係性を整理した授業構想や学習過程 (指導過程)、カリキュラム・マネジメントが必要とされることになっている。

(3) さらに、教科等横断的な視点に立った教育課程を構想するために必要な「言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力等」が基盤となる資質・能力として位置づけられたが (注4)、これ等の資質・能力と教科の「見方・考え方」、目標と評価の関係、資質・能力の評価観との関係の曖昧さ等を指摘することができる。

III 教科の本質に迫る学びと「深い学び」、「見方・考え方」

1 国語科を通じて育む資質・能力と「見方・考え方」

国語科の目標は「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」育成であり、「見方・考え方」は「主体的・対話的で深い学び」の「深い学び」を考える鍵とされる。また、「言葉による見方・考え方を働かせ」とは、学習者が学習の中で「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高める」ことである (注5)。

この記載は表層的・断片的で、国語科の教科を学ぶ意義、教材の本質、特質や構造、特有のテキスト形式への言及等はみられない。これでは国語科の多様な教材、例えば昔話・神話、小説や随筆、伝記、詩歌、記録等の「見方・考え方」は抽出する観点を得ることはできないのではないかと (注6)。

2 教科・教材の本質としての「テキスト内容・形式」

「深い学び」へのアプローチのためには教材の特質・本質を踏まえた「見方・考え方」を明らかにした授業構想が必要である。「見方・考え方」は教科・教材の本質を構成する「テキスト情報内容 (学問的な本質、魅力と背景) と「テキスト情報形式」 (学問領域特有の方法論、戦略や方略・スキル) の二側面に着目し、抽出することが効果的である。これは、今回の学習指導要領の改訂で重視されている「構造と内容の把握」「精査、解釈」「構成・

表現形式の検討」「考えの形成」「共有」等につながる視点である。

IV 「アイスプラネット」(中学2年)の「見方・考え方」

1 少年の成長—世界の真実、内なる可能性の発見— (内容)

小説教材「アイスプラネット」(椎名誠、光村図書)は、中学2年の「僕」が三八歳で定職を持たずふらふらしているおじでいそろうの「ぐうちゃん」との関わり、ぐうちゃんからの手紙と写真 (アイスプラネット) をきっかけに未知の世界に広がる深い真実、広い世界に気づくという少年の成長物語である。

中学二年という時期は高校受験や親・友人関係等、世間的な価値観とどう折り合いをつけるか、自らの生き方のモデルをどこに求めるか葛藤する時期である。ぐうちゃんの生き方とメッセージ (物語) を通して、今までの常識的な価値観とは別な世界と人間の「もう一つの真実」=「内なる可能性」の発見が描かれている。

2 語り、人物群、書簡体小説等の効果的な活用 (テキスト形式)

(1) 「僕」の語りの中で人物像が変化する—語り—

語りの視点「僕」の眼差しのなかでぐうちゃんのイメージが変化する。いかにぐうちゃんをほらふきのぐうちゃんが、最後は世界の深い真実を知る「賢者」としての姿が明らかになる構成である。

(2) 対比的な人物群の効果—父母、中学の友人、イヌイット—

短編のため登場する人物は少ないが、自分の弟のことを心配し、世間的で常識的な価値観を代表する母、社会や世界の様々な生き方を見ていて、ぐうちゃんに好意を持つ父、一般的な中学生の友人等がそれぞれの役割と効果で描かれている。さりげなくしか出てこないが、非常に重要なのはぐうちゃんの話の中で語られるイヌイットの存在と彼らに伝わるアイスプラネットの伝説である。

(3) 手紙という方法—書簡体小説の効果的な活用—

小説の最後に登場するぐうちゃんからの「手紙」の構成的な効果は、イギリスやフランスで流行した近代小説の心理描写の方法 (書簡体小説) の形式の効果的な活用と読むことができる (注7)。代表的な書簡体小説には『パメラ』(リチャードソン)、『危険な関係』(ラクロ)、『若きウエルテルの悩み』(ゲーテ)、『こころ』(漱石) 等がある。書簡体という形式が持つ一番の特徴は私的内的心情を告白する迫真性 (内なる真実の表現) に優れていることで、恋愛と死の心理描写に多用されてきた。読者は手紙の語り手の内面的告白を読むことで、赤裸々な心の秘密や真実、生き生きとした感覚の震え、エピソードまでリアルに想像し、そこにある生き方を共有することができる。

V 「アイスプラネット」の授業実践 (概要)

「見方・考え方」をいかした授業実践の概要を記す (詳細は略)

1 授業実践のポイント—「見方・考え方」をいかす三観点—

- (1) 末尾、ぐうちゃんの手紙 (写真) が「僕」にどんな変化を与えたか、自分の考えをもち深められるようにする。
- (2) 現代の「当たり前や常識」に目を向け自分の立場や課題意識等から「もう一つの真実」を発見できるようにする。
- (3) 「手紙」の形式をいかし小説の続きを表現させる。自己の生き方や価値観・態度を再構築したり、様々な見方や考え方に共感したり探究できるようにする。

2 単元名 わたしの「常識」は非常識？

一僕とぐうちゃんに学ぶ「不思議アタマ」と真実—

3 単元の目標と学習過程（9時間計画、概要）

(1) 「アイスプラネット」を通して小説を読む楽しさや魅力、読み方を理解することができる。**習得1・習得2（学びの楽しさ、基礎から基本へ）【知識・技能】…資料1・2**

(2) 状況設定、中心人物の変化、対比的人物群の役割、語りと構成の効果、特徴的な表現や描写の意味、効果等を解釈し考えを広げ深めたりして読むことができる。

活用1（小説の理解、語り・構造・人物・描写等、考えの形成、言語化）【思考・判断・表現】…資料3・4

(3) 手紙（書簡体）のテキスト形式を理解し現代における「当たり前や常識」の奥にある「もう一つの真実」を見つめ、続きの物語（「僕」からの手紙）を書くことができる。

活用2（論理的な報告、書簡体の効果とエピソードの選択）【思考・判断・表現】…資料5・6・7

(4) 「手紙」を発表・交流し学んだことや課題を共有し考えを広げ深め、振り返り、他教科での学習、これからの生き方、価値観・態度の形成にいかすことができる。

振り返り（創作・パフォーマンスから「深い学び」へ、ルーブリック、メタ認知・自己調節）【主体的に学習に取り組む態度】…資料8・9

VI 資質・能力の評価方法の開発、実践

1 国語科の「テキスト形式」の解明と「見方・考え方」

これまでの国語科の授業では教材の内容的な価値理解に重きが置かれ、「テキスト形式」の効果や学習意義等についてはあまり触れられてこなかった（注8）。「見方・考え方」を踏まえた小説や報告・論説文等のテキスト形式、さらに随筆や伝記教材等の複合的なテキスト形式の「見方・考え方」や教材を学ぶ意義を解明し、どのように評価するか（パフォーマンス課題の設定とルーブリック開発）を考えていくことが、バランスの良い資質・能力育成につながる国語科の授業づくりの課題である（注9）。

2 国語科におけるパフォーマンス課題・ルーブリックの開発

これからは「何を・いかに教えるか」以上に、結果として生徒自身が「何ができるようになったのか」（到達目標と評価規準、学修成果の質）に力点を置いた授業構成が求められている。そのための評価方法（パフォーマンス課題の設定は「見方・考え方」と関連）とルーブリック開発が重要な実践課題である。

なお、本稿で提案したルーブリック（評価基準試案、資料9）の特色を二点述べる。一つは学びの質を具体的に評価するために、従来使用されているA・B・Cの三段階（これまでの文科省・国立教育政策研究所提示）ではなく六段階に設定したことである。詳細な質的基準を設定することで主体的・探究的な深い学び、質的に高度な学びを見取るとともに、未到達の生徒には支援の観点とすることができるからである。

二つ目は、資質・能力の三つの柱である「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に加え、これ

らを含む「メタ認知（自己調節能力）」の四項目を、内容的な価値とテキスト形式の価値の両面から、教材の特質に合わせて整理したことである。

VII まとめにかえて—教科の学びから「深い学び」へ—

これからの時代に求められる資質・能力とは、「教科等を学ぶ本質的な魅力（価値や意義）」を「見方・考え方」の理解を通して習得させつつ、考えや解釈、考察を汎用的なリテラシーや世界の現代的諸課題と関連付けたり（考えの形成、活用・統合）、多様な人との対話で考えを広げ深め、生き方や価値観・感性を再構築できるような「深い学び」が求められている（創造的で批評的な探究、メタ認知・自己調節能力）。

それでは「見方・考え方」を働かした「深い学び」「深いアプローチ」とは、具体的に学習者が「何がどうできるようになる」ことなのか。私見を八項目に整理しまとめに代えたい（注10）。

- (1) 既存の知識や経験と「考え・解釈」を関連づけること。
- (2) 重要な原理やパターンを探ること（本質や法則性の発見）。
- (3) 多様な情報・テキストを視点や立場、根拠を持ち解釈・考察し結論に結び付けられること（情報の精査、考察と構成）。
- (4) 論理展開や議論、論点、発想等を注意深く批評的に評価、検討、改善できること（クリティカルシンキング）。
- (5) 価値ある問い（本質的な課題）を持ち、未知の事項に対して何がどう課題が解決できること（創造的・探究的な「課題発見・解決能力」）。
- (6) 思いや考えを創造し提案できること（鑑賞や批評、エッセイ、創作、協働的な活動、プレゼンテーション能力）。
- (7) 学びながら成長していることを自覚的に話したり書いたり理解することができること（省察、メタ認知能力）。
- (8) 教科等の本質や学習価値、学習方略を俯瞰的な視点から再構成し、価値観や感性、態度につなげる（自己調節能力）。

本稿は新学習指導要領における資質・能力育成型教育における実践課題に着目し、「見方・考え方」を働かし教科の本質に迫る学び、「見方・考え方」を通した「深い学び」について考察、提案したものである。理論的提言と考察は佐藤が、実践とルーブリックや学習シート開発は松山が行った（注11）。なお、紙面の関係で授業実践の詳細は略させていただいたことをお断りする。

【注記】

- 1・2・3・4 『中学校学習指導要領解説 総則編』第1章・改訂の経緯及び基本方針（1）改訂の経緯、『中学校学習指導要領解説 国語編』第1章・1改訂の経緯及び基本方針、2国語科の改訂の趣旨及び要点（2018年）。
- 5 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』別添2-3、2016年12月）。
- 6・8 佐藤洋一「国語教育は資質・能力観型教育に対応できるか—デジタル時代の情報リテラシーへ—」『楽しく深い学び』

を創る国語科授業研究会紀要3号』（「楽しく深い学び」を創る国語科授業研究会編著2020年6月）、佐藤洋一・加藤洋佑「創造的な『課題発見・解決能力』を育てる探究型国語科学習—私たちが世界を変えていく、SDGs への挑戦—」（『名古屋学芸大学研究紀要教養・学際編第16号』2020年）、同・有田弘樹「資質・能力を育て『深い学び』につながるカリキュラム・マネジメント」（『名古屋学芸大学ヒューマンケア学部紀要第12号』（2019年）等参照。

- 7 佐藤洋一「文体（文学的教材）」『国語教育研究大辞典・普及版』（明治図書1991年）、763～765頁。
- 9 ダイアン・ハート著（田中耕治監訳）『パフォーマンス評価入門』（ミネルヴァ書房2012年）、西岡加名恵他編著『見方・考え方で育てるパフォーマンス評価』（明治図書2018年）、同編『新しい教育評価入門』（有斐閣2015年）、佐藤洋一・神谷晴香「高等学校「地理歴史科」における探究的な学びの創造—資質・能力の評価、ルーブリック開発へ—」（『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要 Vol.4』（2019年）等参照。
- 10 資質・能力論から「見方・考え方」「深い学び」に言及したものに第49回教育展望WEBセミナー（板倉寛・溝上慎一氏、パネルディスカッション要旨）「資質・能力を育成するためにはどのように学びを深めればよいか」（『教育展望2020年11月号』（教育出版2020年）がある。ただ、教科の学びの意義や内実、本稿で問題にしたテキスト形式等との関係は不明確である。

11 「アイスプラネット」をテキスト内容と形式の観点から捉えた実践、また「見方・考え方」の視点を明確にしたところからの教育実践は、管見ではみることができなかった。

資料1

習得1

教材（小説）の読み方の確認及び疑問・感想を書く学習シート（ステップ1）

①これまでの学習方略・方法論とのつながりの想起

②価値ある問い（学習課題）につながる疑問・感想から主体的な課題解決へ

3 「アイスプラネット」を読んで、思ったことや感じたこと、考えたことなどを書きなさい。

疑問

P. I. ①

P. I. ②

2 「『はきくと大切だ！』『気がなる……』という表現（描写）は？（理由）

疑問

P. I. ①

P. I. ②

1 「『よくわからなかった……』（疑問）」「みんなの考えを聞きたい！」（追究）という表現は？（理由）

学習シート①

アイスプラネット

二年 組 番 氏名 誠

はじめての疑問や感想をまとめて、学習課題につなげよう！

☆こんなところに着目しよう！

① 場面 ……どんな事件や出来事が起きた？ 人物が変化（心情・行動）する場面は？

② 人物 ……登場（中心・対比）人物は誰？ 役割は？ 何がきっかけでどんな変化をした？

③ 表現 ……人物の描写（行動や会話）の意味は？ 象徴的に描かれているものと意味は？

④ メッセージ ……作品に込められたメッセージは？ 自分の人生（生活）や経験とのつながりは？

① ② ③ ④

資料2

習得2 人物設定の構図（方法）や小説の構成を捉える学習シート（構造と内容の把握）
 ①人物（中心人物と対比人物群）の設定・関係の確認（ステップ2）
 ②全体の構成（場面ごとの出来事、中心人物の心情の変化）の理解（ステップ3）

○今日の学習の振り返りをしましょう。わかたてで考えたり、ききとれさせたりしましょう。

| 展開 | 展開② | 展開① | 発端 | 設定 | 構成 | |
|------------------|--------------|----------------|-----------|------------|----|---|
| くうちゅんから届いたもの | 「しせうちゅ」からの卒業 | くうちゅんの話 本当？うそ？ | くうちゅんのほら話 | 僕の部屋 くらちゃん | 場面 | |
| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| （四） くちゅんから届いた | 十月初め | 九月初め | 翌日 | 夕食後 | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

ステップ3 場面ごとの内容をまとめて、「構成を捉えよう！」

学習シート2
 アイスフラネット
 二年 組 番 氏名
 推名 誠

資料3

活用1 対比人物群の役割と効果、作品に込められたメッセージを解釈する学習シート
 ①対比人物（父・母）が、中心人物（僕）に与えた影響の理解（ステップ4）
 ②中心人物の変化の理解と作品に込められたメッセージについての考えの形成（ステップ5）

○今日の学習の振り返りをしましょう。わかたてで考えたり、ききとれさせたりしましょう。

学習シート3
 アイスフラネット
 二年 組 番 氏名
 推名 誠

ステップ4 対比人物の役割を考えよう！

母「や」父「や」のくちゅんに対する思い

母
・怒る
・気持ちは悪くし・怒太に悪い影響

父
・力仕事ができて安心・歓迎
・気がつかないが見えていいる・うちゅんらしい

ステップ5 人物の変化と作品の主題を考えよう！

くちゅん 行動の変化

「常識」の世界に生きる「常識」
 「常識」ごとくおこなうくちゅん

肯定的
否定的

資料6

活用2 書簡体のテキスト形式を使い自らの「もう一つの真実・新たな発見」についてまとめる学習シート
 ①手紙が届いた状況設定や選択したエピソードについての自分の考えの形成（ステップ9）
 ②資料や生活経験を基に、自らの真実・新たな発見についての自分の考えの形成（ステップ10）

○今日の学習の振り返りをしよう。わかたててあげられなかったところをもう一度書いてみよう。

○決めたテーマに対する、自分の考えをまとめよう。

○資料①②をもとに、または自分の生活の中から、エピソードのテーマを決めよう。（これまでの経験「見たり聞いたりしたこと」の中で、結び付くものはないかな？）

○決めたテーマに対する、自分の考えをまとめよう。

○資料①②をもとに、または自分の生活の中から、エピソードのテーマを決めよう。（これまでの経験「見たり聞いたりしたこと」の中で、結び付くものはないかな？）

○今日の学習の振り返りをしよう。わかたててあげられなかったところをもう一度書いてみよう。

○決めたテーマに対する、自分の考えをまとめよう。

○資料①②をもとに、または自分の生活の中から、エピソードのテーマを決めよう。（これまでの経験「見たり聞いたりしたこと」の中で、結び付くものはないかな？）

○今日の学習の振り返りをしよう。わかたててあげられなかったところをもう一度書いてみよう。

○決めたテーマに対する、自分の考えをまとめよう。

○資料①②をもとに、または自分の生活の中から、エピソードのテーマを決めよう。（これまでの経験「見たり聞いたりしたこと」の中で、結び付くものはないかな？）

資料7

活用2 書簡体のテキスト形式の効果を生かし自らの「もう一つの真実・新たな発見」を発信するシート
 ①小説の続きとして、手紙を書く（ぐうちゃんへ返信する）言語活動
 ②資料や生活経験を基に、自らの真実・新たな発見をエピソードとして記述

○今日の学習の振り返りをしよう。わかたててあげられなかったところをもう一度書いてみよう。

○決めたテーマに対する、自分の考えをまとめよう。

○資料①②をもとに、または自分の生活の中から、エピソードのテーマを決めよう。（これまでの経験「見たり聞いたりしたこと」の中で、結び付くものはないかな？）

○今日の学習の振り返りをしよう。わかたててあげられなかったところをもう一度書いてみよう。

○決めたテーマに対する、自分の考えをまとめよう。

○資料①②をもとに、または自分の生活の中から、エピソードのテーマを決めよう。（これまでの経験「見たり聞いたりしたこと」の中で、結び付くものはないかな？）

○今日の学習の振り返りをしよう。わかたててあげられなかったところをもう一度書いてみよう。

○決めたテーマに対する、自分の考えをまとめよう。

○資料①②をもとに、または自分の生活の中から、エピソードのテーマを決めよう。（これまでの経験「見たり聞いたりしたこと」の中で、結び付くものはないかな？）

資料8 **振り返り** 単元全体の学びの振り返り・自己評価、友達の手紙を読み交流する学習シート

①学びのポイントの振り返りと自己評価、教科等横断的な視点からの学びの位置付け

②友達の手紙のよさや改善点についての自分の考えの形成・評価 (批評)

○学習を振り返り、自己評価をしよう!

振り返りシート
アイヌフラネット

二年 組 番 氏名

姓名 氏名

名 前

名 前

名 前

① アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

② アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

③ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

④ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑤ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑥ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑦ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑧ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑨ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑩ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑪ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑫ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑬ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑭ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑮ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑯ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑰ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑱ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑲ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

⑳ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉑ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉒ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉓ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉔ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉕ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉖ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉗ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉘ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉙ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉚ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉛ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉜ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉝ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉞ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㉟ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊱ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊲ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊳ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊴ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊵ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊶ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊷ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊸ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊹ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊺ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊻ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊼ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊽ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊾ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

㊿ アイヌフラネットの学習全体を振り返ろう!

資料9 本単元におけるルーブリック (I~IV ((1)~(8)の項目), 0~5の6段階)

| 観点 | 具体的な姿 | 5 (S) | 4 (A) | 3 (B+) | 2 (B-) | 1 (C) | 0 (D) | |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------|--------|---------------------|----------------|-----------------------------------------------|----------------------------|---------------|
| I 【知識・技能】 | (1)「世界を見つめ、身の回りの『常識』を超えて真実を探究する」というものの見方や考え方を理解することができたか。(体験を通じた実感, 未知への探究心) | 二項目とも、十分に達成できている | 達成している | もう一項目についても、概ね達成している | 二項目とも、概ね達成している | 一項目は概ね達成しており、もう一項目については、不十分ではあるが概ねに近づいて学習している | 二項目とも、不十分ではあるが観念に沿って学習している | 全くできていない項目がある |
| | (2)「手紙」や「写真」が自分の考え(解釈・メッセージ)を効果的に伝える方法の一つであることを理解できたか。(テキストのもつ価値, 効果的な表現方法の理解) | 二項目とも、十分に達成できている | 達成している | もう一項目についても、概ね達成している | 二項目とも、概ね達成している | 一項目は概ね達成しており、もう一項目については、不十分ではあるが概ねに近づいて学習している | 二項目とも、不十分ではあるが観念に沿って学習している | 全くできていない項目がある |
| II 【思考・判断・表現】 | (3)「常識」を超えた真実を見付け、自分の立場から続きの物語を考え、手紙の形式を生かして書くことができたか。(文学的な文章の特徴を生かして論理的な構成で考えをまとめる) | 二項目とも、十分に達成できている | 達成している | もう一項目についても、概ね達成している | 二項目とも、概ね達成している | 一項目は概ね達成しており、もう一項目については、不十分ではあるが概ねに近づいて学習している | 二項目とも、不十分ではあるが観念に沿って学習している | 全くできていない項目がある |
| | (4)友達と意見を交わし考えを形成し、自分の生き方やものの見方、考え方を広げ深化させることができたか。(対話を通じた学び) | 二項目とも、十分に達成できている | 達成している | もう一項目についても、概ね達成している | 二項目とも、概ね達成している | 一項目は概ね達成しており、もう一項目については、不十分ではあるが概ねに近づいて学習している | 二項目とも、不十分ではあるが観念に沿って学習している | 全くできていない項目がある |
| III 【主体的に学ぶための取り組み態度】 | (5)知識・技能や思考力・判断力・表現力を獲得するため、学習に粘り強く取り組むことができたか。(自分の立場から価値ある問いをもち、主体的に課題解決をやり遂げる) | 二項目とも、十分に達成できている | 達成している | もう一項目についても、概ね達成している | 二項目とも、概ね達成している | 一項目は概ね達成しており、もう一項目については、不十分ではあるが概ねに近づいて学習している | 二項目とも、不十分ではあるが観念に沿って学習している | 全くできていない項目がある |
| | (6)学習の途中で自らの達成度を振り返り、より良く学ぶために調整しながら学習を進めることができたか。(学習到達度や課題を理解し調整できる) | 二項目とも、十分に達成できている | 達成している | もう一項目についても、概ね達成している | 二項目とも、概ね達成している | 一項目は概ね達成しており、もう一項目については、不十分ではあるが概ねに近づいて学習している | 二項目とも、不十分ではあるが観念に沿って学習している | 全くできていない項目がある |
| IV 【メタ認知】 | (7)学習全体を通し身に付けた資質・能力((1)~(6))を振り返り自覚ができたか。(学習全体を通したメタ認知) | 二項目とも、十分に達成できている | 達成している | もう一項目についても、概ね達成している | 二項目とも、概ね達成している | 一項目は概ね達成しており、もう一項目については、不十分ではあるが概ねに近づいて学習している | 二項目とも、不十分ではあるが観念に沿って学習している | 全くできていない項目がある |
| | (8)学習全体を通し身に付けた資質・能力を、他教科の学びや自らの生き方、ものの見方の変更・更新(再構成)に生かそうとすることができたか。(自分自身の生活や未来へ生かす力) | 二項目とも、十分に達成できている | 達成している | もう一項目についても、概ね達成している | 二項目とも、概ね達成している | 一項目は概ね達成しており、もう一項目については、不十分ではあるが概ねに近づいて学習している | 二項目とも、不十分ではあるが観念に沿って学習している | 全くできていない項目がある |